

# 世田谷区における中小企業の景況

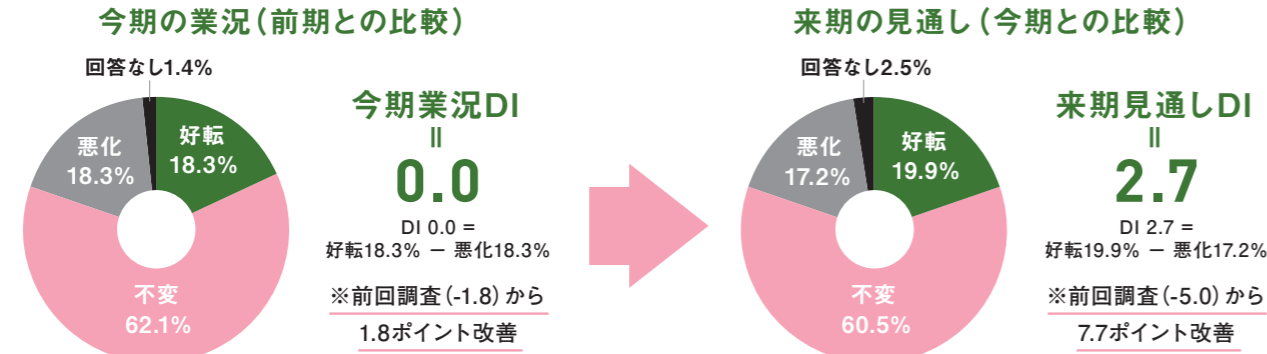
## 第57回調査実施概要

1.調査時期:平成28年10月1日～10月12日 2.対象期間:平成28年7月～平成28年9月期、および平成28年10月～平成28年12月期見通し 3.調査対象:支部会員中小企業(約2,834社)①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②～④を除く)…資本金3億円以下、または従業員300人以下 ②卸売業…資本

金1億円以下、または従業員100人以下 ③小売業…資本金5千万円以下、または従業員50人以下 ④サービス業…資本金5千万円以下、または従業員100人以下 4.調査方法:調査票郵送～郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。5.回収状況:合計367社(回収率12.9%)製造業…59社・不動産業…38社・小売業(飲食業含む)…70社・建設業…54社・卸売業…32社・サービス業…114社 ※数値については小数点第2位を四捨五入しており、計算値が一致しない場合がある。

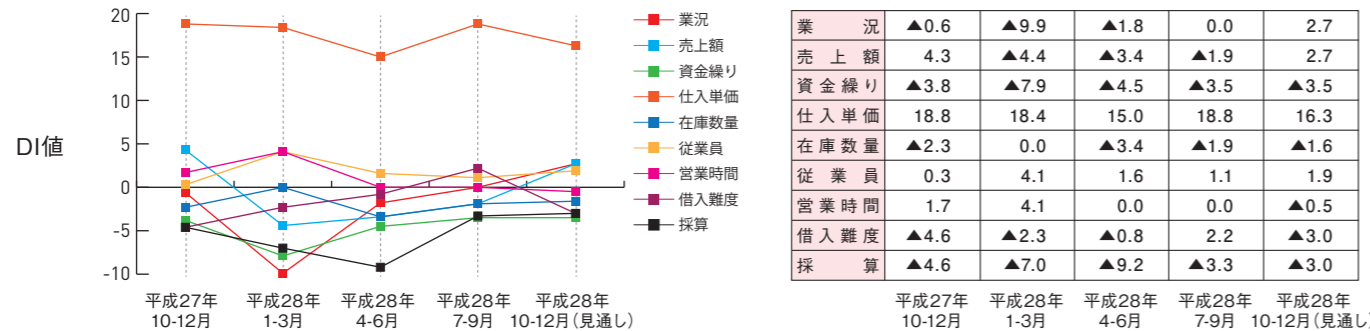
### 業況

今期(平成28年7月～9月期実績)の業況DIは、0.0ポイントで、前期から1.8ポイント改善し、2期連続の改善となった。来期の業況見通しDIは、2.7ポイントと、前回調査から7.7ポイント増加と5期ぶりに改善し、プラスが見込まれる。



### 主な指標別の傾向

今期は、採算▲3.3(前期比+5.9)、仕入単価18.8(同+3.8)など6指標でポイントが増加し、営業時間0.0(同0.0)は前回とポイント変わらずで、減少は従業員1.1(同▲0.5)のみとなった。来期見通しは、売上額2.7(当期比+4.6)、在庫数量▲1.6(同+0.3)など4指標でプラスが見込まれる。



### 主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目:業況(好転⇨悪化)、売上額(増加⇨減少)、資金繰り(好転⇨悪化)、仕入単価(上昇⇨低下)、在庫数量(増加⇨減少)、従業員(増加⇨減少)、営業時間(延長⇨短縮)、借入難度(容易⇨困難)、採算(好転⇨悪化)

	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	0.0	▲2.2	▲1.9	▲3.0	▲3.5	18.8	▲1.9	1.1	0.0	2.2	▲3.3
製造業	6.8	▲3.4	0.0	▲1.7	0.0	22.0	▲5.1	▲8.5	3.4	3.4	▲10.2
建設業	18.5	18.5	20.4	13.0	9.3	22.2	▲9.3	14.8	▲1.9	18.5	16.7
不動産業	▲7.9	▲18.4	▲15.8	▲18.4	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0	▲2.6	▲5.3
卸売業	▲15.6	▲21.9	▲15.6	▲21.9	▲3.1	21.9	3.1	0.0	▲9.4	12.5	▲9.4
小売業	▲20.0	▲14.3	▲17.1	▲18.6	▲11.4	28.6	▲1.4	▲2.9	▲5.7	▲4.3	▲12.9
サービス業	7.0	7.0	4.4	8.8	▲7.9	9.6	0.9	2.6	5.3	▲3.5	▲0.9

### 主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

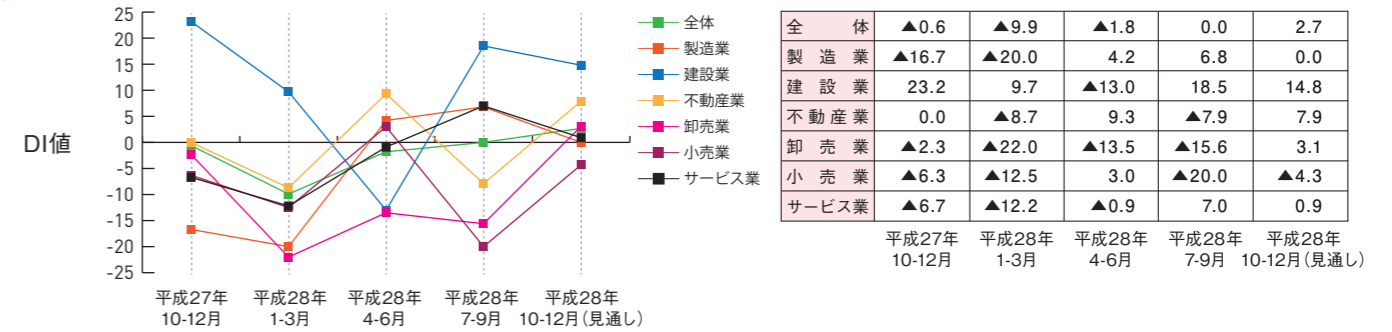
	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	2.7	2.7	▲3.5	16.3	▲1.6	1.9	▲0.5	▲3.0	▲3.0
製造業	0.0	0.0	0.0	16.9	0.0	▲3.4	▲1.7	3.4	▲16.9
建設業	14.8	20.4	7.4	18.5	▲5.6	3.7	▲1.9	14.8	13.0
不動産業	7.9	0.0	0.0	7.9	▲5.3	2.6	0.0	▲7.9	▲2.6
卸売業	3.1	3.1	0.0	34.4	3.1	0.0	▲6.3	9.4	3.1
小売業	▲4.3	▲5.7	▲10.0	18.6	▲4.3	▲2.9	▲4.3	▲10.0	▲8.6
サービス業	0.9	1.8	▲8.8	11.4	0.9	7.0	4.4	▲12.3	▲1.8

概況:<DI(Diffusion Index)とは…> DI(%)=[良い][増加]等企業割合-[悪い][減少]等企業割合

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」したとする企業の割合が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

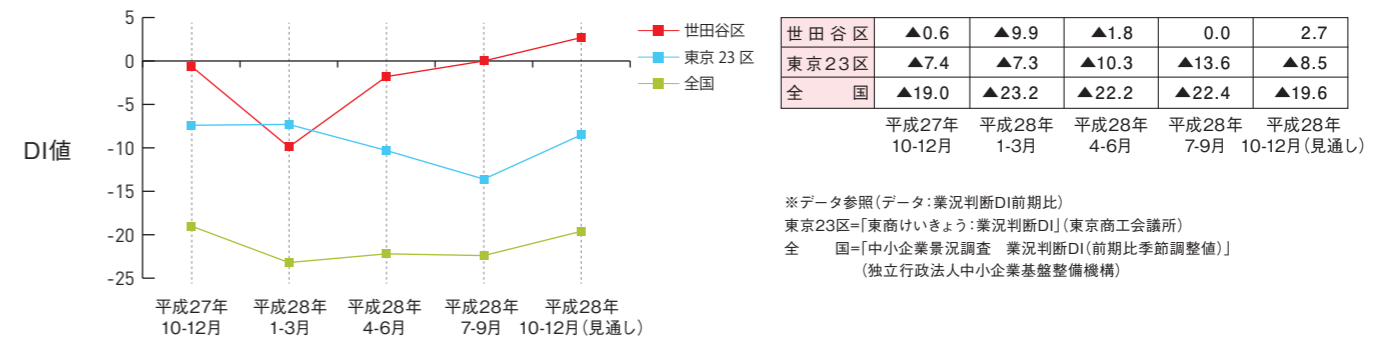
### 業種別の動向

今期の業種別DIは、「建設業」+18.5(前期比+31.6)、「サービス業」+7.0(同+7.9)、「製造業」+6.8(同+2.6)の3業種で改善し、「小売業」▲20.0(前期比▲23.0)、「不動産業」▲7.9(同▲17.2)、「卸売業」▲15.6(同▲2.1)が悪化した。来期は、「卸売業」+3.1(当期比+18.7)など3業種が改善する見通し。



### 東京都・全国との比較

「世田谷区」(0.0ポイント、前期比+1.8)は2期連続で改善。「東京23区」(▲13.6ポイント、同▲3.3)は2期連続悪化。「全国」(▲22.4ポイント、同▲0.2)は前期よりポイントが微減。来期は、「世田谷区」(+2.7ポイント、当期比+2.7)、「東京23区」、「全国」と改善する見通し。



※データ参照(データ:業況判断DI前期比)  
東京23区=「東商けいきょう:業況判断DI」(東京商工会議所)  
全国=「中小企業景況調査 業況判断DI(前期比季節調整値)」(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

### 経営上の問題点

1位「従業員の確保難」28.9%(前期比+3.6ポイント)と2期連続の1位となった。2位「購買ニーズの変化への対応」24.0%(同+6.4ポイント)と前回順位8位から2位に上昇した。3位「人件費以外の経費の増加」21.8%(同▲0.3ポイント)と前回順位と同じ。4位「需要の停滞」19.9%(同+0.4ポイント)は前回順位6位から上昇した。5位「新規参入者の進出や同業者の増加」19.3%(同▲0.4ポイント)は前回順位4位から下降した。6位「販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難」19.1%(同+1.2ポイント)などが前回順位から上昇した。7位「仕入単価、下請け単価の上昇」18.8%(同▲0.9ポイント)、8位「人件費の増加」18.5%(同▲6.2ポイント)、などは前回順位から下降した。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位	順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	従業員の確保難	106	28.9%	1	11	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	30	8.2%	10
2	購買ニーズの変化への対応	88	24.0%	8	12	事業資金の借入難	27	7.4%	13
3	人件費以外の経費の増加	80	21.8%	3	13	取引条件の悪化	23	6.3%	10
4	需要の停滞	73	19.9%	6	14	その他	19	5.2%	16
5	新規参入者の進出や同業者の増加	71	19.3%	4	15	購買力の他地域への流出	16	4.4%	14
6	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	70	19.1%	7	16	金利負担の増加	11	3.0%	18
7	仕入単価、下請け単価の上昇	69	18.8%	4	17	在庫の過剰	10	2.7%	15
8	人件費の増加	68	18.5%	2	17	代金回収の悪化	10	2.7%	19
9	大企業(大型店)進出による競争激化	64	17.4%	9	19	在庫の不足	7	1.9%	17
10	生産設備の不足・老朽化	33	9.0%	12	20	生産設備の過剰	1	0.3%	20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。